

INSPIRE No.7

イベント

第11回GSGミーティング

日時：9月13日（日）

時間と場所は未定です。

費用：5,000円

対象：保護者（先着12名）

申し込み：office@jagifted.org

テーマ：**アメリカの最新ギフトッド教育事情をご紹介します。**

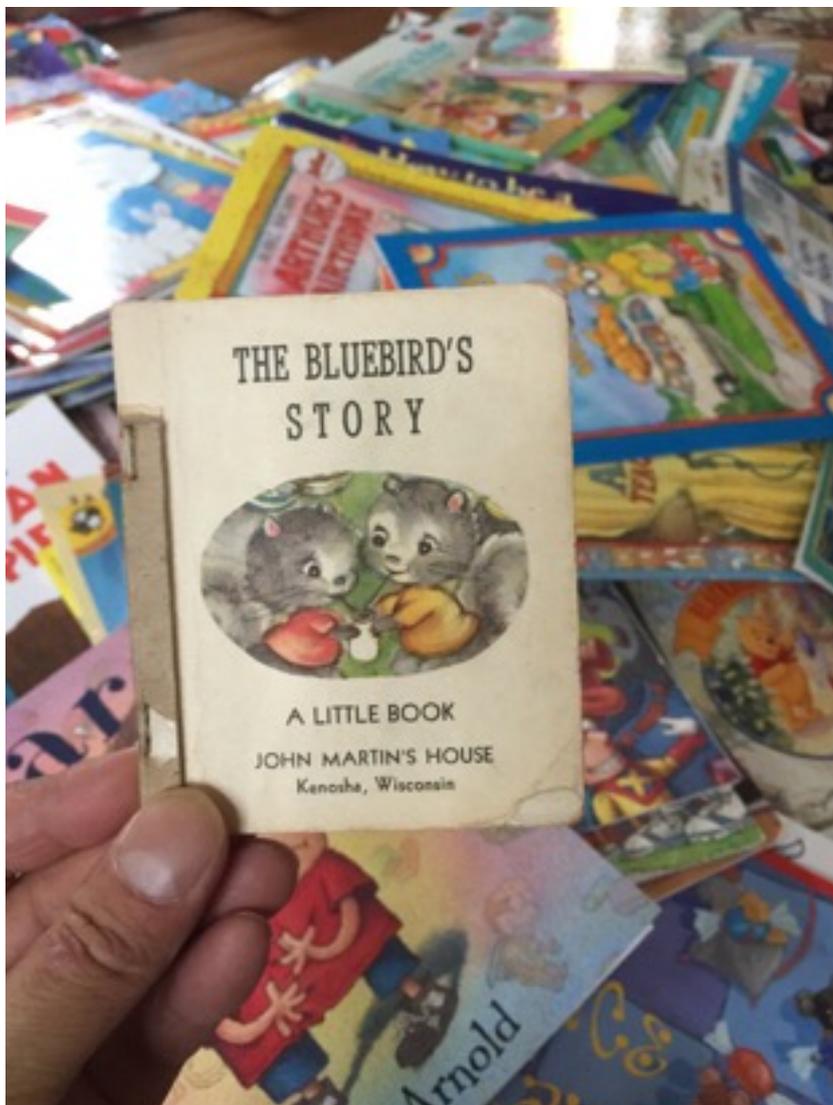
7月にアメリカサンマテオ市にあるギフトッドサポートセンターで、室長のアン・スミス氏と対談を行います。その対談で話された最新のギフトッド事情、アメリカで行われているギフトッドサポートグループなどをご紹介します。

ギフトッドサポートセンター in U.S.A

<http://www.giftedsupportcenter.com>

申し込み：office@jagifted.org

日本ギフトッド協会事務局



こんなに小さな本でもストーリーがあります。ストーリーに本の大きさは関係ないように、ストーリーに年齢は関係ないです。最近聞いた子供たちの話で心に残ったものはありますか。子供たちのストーリーを一緒に楽しんでいますか。子供に本を読み聞かせるように、子供たちに話し聞かせてもらっていますか。

この夏はどんなストーリーを子供たちは話すでしょうか。



「世の中そんなに悪くないな」と思える方法 1

子どもの同級生のお母さんからショーン・エイカーの「幸福優位の7つの法則」という本を勧められました。最近歴史の本ばかり読み、仕事関係の本を読んでいませんでした。今回は私のライフワークの「自尊心」にも関わるため、読み始めました。

その本の中で私に一番ヒットしたのが、「テトリス効果」という話です。「テトリス効果」とは、テトリスというゲームばかりやっていると、現実の世界に出た時にも、「あのビルとビルの上にこのビルがはまるなあ」とか考えてしまう現象のことを言います。つまり、脳を繰り返し同じパターンで使っていると、その内その思考パターンから抜け出せなくなってしまうのです。

クリニックでの診療で会うお子さんや親御さんの中には、世の中をどうしても否定的にしか見れなくなっている人がいます。この人達にただ「ポジティブに考えましょう」と言っても、ほとんど効果がありません。どうしたら、この人達の思考パターンを変えられるかが、私の未解決の課題だったのです。

テトリス効果への対処法として、本の中では「今日起こった三つのよいことを書き出す」という方法が提案されています。確かにこれが続ければ、明るく物事を見られるようになりそうです。しかし、昔から私は何事も長続きしません。長く続けているのはこの児童精神科医の仕事ぐらいで、これにやっと最近始めた剣道が加わるかどうかです。このやり方では続く自信がないので、以下のように変えてみました。①誰かに感謝するような出来事、②自分は運が良いなと思うような出来事、③笑える失敗談の三つを、夕飯時に家族で発表し合うというものです。例えば、私の場合①妻に車で送ってもらって助かった、②混んでるスタバで席が一つ空いていた、③トイレの便座を倒さず座ってしまったという感じです。早速我が家で始めてみました。

皆さんも良かったら家族がそろう時にやってみて下さい。
意外と盛り上がりますよ。 つづく

尾山台すくすくクリニック 新井慎一



ADOVOICE : 「子供たちは師匠～私の中のギフトィッド～」

開塾してから何人の子供たちと出逢ってきただろう。卒塾生たちはいまだに私のことを“先生”と呼んでくれる。しかし、私にとって彼らは“師匠”である。一人一人と十人十色の学習課題と向き合う中で、多くの気づきと学びを経験させてもらい、今の“オオヤ先生”（わたし）が存在する。だから、いまや私の周りは“師匠”だけである（笑）。

1998年、2年間のアメリカ留学を終え小さな塾を立ち上げた。田畑に囲まれた三重県の片田舎で、自宅を兼ねた小さな学び舎。21世紀型の私塾“オープンスクール”と名付けた。

英語の教員を目指していた大学4年生のとき、読み書きに重きを置く日本の学校教育で、Dyslexia（読書困難）に苦しむLD（学習障がい）の子供たちがいることを知った。そんな子供たちに中学校での新生活で英語を通してリベンジしてもらいたくて「学習の仕組み」を追究した。私自身、私立中学受験で合格できず、心が捻じ曲がりそうになったが、英語を糸口（キッカケ）に中学生生活を再生できたという経験があったからだ。それは、小5の頃に家庭教師としてご縁を頂いて、大人になってもメンターとしてずっとお世話になった今は亡き恩師のおかげであった。

開塾後、幼児教育を探究した。更に根源的な「学習の仕組み」を子供たちの発達の過程で知ることが子供たちの苦しみや彼ら自身を理解する糸口（キッカケ）となると考えたからだ。“人類が二足歩行へと進化する過程で能力を獲得してきた同じ順番で子供たちの能力を育む”という理論に基づき、五感で感じることを大切に子供たちの生きる力（能力）にアクセスすることで、彼らの自尊心や知的好奇心（やる気）とつながると実感した。しかし、そこにはLove（愛情）をエネルギー（原動力）とした子供たちへのrespect（敬意）が肝心であり、それは車のエンジンをかける時のカギのような役目を果たしていた。それは幼児に限らず、どの年齢の子供たちにも共通してスイッチをONにするカギであった。

今、私を突き動かしているのは、目の前にいる子供たちの存在自体である。

それは少年の日の私。たとえば、9歳のわたし。深夜ラジオを聴きながら自分の感性と同じ波長の合う理解者を求めて、ダイヤルを回してチューニングしていたあの日の“ぼく”。

それは青年の日の私。たとえば、15歳のわたし。言葉を武器に戦うことが生きる術（すべ）と言い聞かせたあの日の“僕”。
それは私の中のギフトィッドかもしれない。



Don't think! Feel! (考えるな感じる!!)

Don't think! Feel! 考えるな感じる!!

ブルース・リーが、映画「燃えよドラゴン」で少年に語った名言。

小学生低学年だった私は、この映画でブルース・リー(32)の大ファンになった。同級生のほとんどがアイドル歌手に夢中だったあの頃、既に亡くなったアジアのスーパースターに夢中なんて、友達には言えなかった。

ほどなくして、ドリフがマネして大ブームになった。クラスの男子は、なぜか私にだけカンフーキックしてくる。超バカ男子!サイテー!私よりチビで短足で鈍くて、おまけに負けるのわかっているクセに、わざと仕掛けてくるなんて100万年早い!本当にキライ、キライ、男子が大・大・大ッキライッーッー!!!

時を経て、こんな私が男子を産んでしまった!超ショック!でもでも、成長するたびに思う。息子は私の知るバカ男子とはなんか違う。不思議、寡黙、過敏、もの思いにふける、大人びている、とにかく子供らしくないのだ。悪く言えばひとりっ子のび太みたいな子供。かつてのバカ男子のノリですら、普通っぽくて羨ましいなんて思っている私がいた。

数年後、彼の不思議に涙の日々だった。単体の発達障害?でも何かが違うと大いに悩んでいた。WISC結果を片手に彼の不思議を解明したく、ネットや書籍等手探り状態でやっと引っかかったひとつのキーワード、それはギフトッド...

彼ソックリの不思議くんのブログを発見し、やっとわかった。わが子もギフトッドかもしれない!彼同様に息子も考えていない、感じているんだ!五感が研ぎ澄まされ過ぎているんだ。

よーし、私も感じるぞ〜。そうだひらめいた、アドボケイターが必要だ!学校じゃ無理、担任は40人学級でお疲れ気味、しかも1年で担任チェンジ。親・学校以外のアドボケイターだ。理想はドラえもん!のび太に挑戦・冒険体験をさせてくれる先生だ。失敗してもいい、振り返りで彼を成長させてくれる人を探そう!

あれから2年...。ついに中学生になってしまった。思春期に突入して、最近は親子ケンカばかり!!あーあ子育てを少しでも外注したいよ。まったくどこに潜んでいるんだ先生は!

研ぎ澄まされた直感を信じて、今日もアドボケイターを探す母であった。 続く...

ギフトッドアドボケイター M.I.





85という番号

私の生徒はいつ85になるのだろう。85になる頃には快適ゾーンも大きく広がっているのだろう。85になるという事は長い旅に出ているに違いない。85になった生徒と行ける冒険はどんな場所だろう。楽しみだ！

私の同僚のエリン先生が「No naked numbers! 裸の番号はダメ！」と数学の時間に言っていました。85は単位がついていないので、「裸の番号」でした。この85につく単位はなんでしょうか。実は「歳」ではなく、「リットル」です。生徒が85リットル？ どういった事でしょうか。それは、85Lの容量のバックパックという事です。85Lくらいのバックパックを使うという事は色々な冒険に出ているはずですし、これから出るはずです。快適ゾーンなども広がっているはずです。冒険に出る子供は、きっと最初はスーツケース、そして、体のサイズにあったリュックと成長していき、最終的には85Lくらいのバックに成長しているはずです。

ちなみに私が所有している85Lのバックは3つ目で、最初の二つはボロボロになるまで使用しました。最初に訪れた国はカナダ、45Lくらいでした？その後、ペルー、カンボジア、ベトナム、ハンガリー、オーストリア、チリ、チェコ、スロバキア、エルサルバドル、グアテマラ、ボリビアなどまわってきましたが、持っていく物、身につける物など、必要性や重さに意識を向けるようになりました。「これは本当に私に必要なのだろうか」私が持っていく物の中にはオリジナルピンバッジなどがあります。旅先での偶然の出会いを祝う時に、ささやかなプレゼントとして渡します。だいたい100個くらいは持っていきます。

85歳になって85Lのバックパックを背負って、世界を旅していたら、それはどんなに素敵な事なんだろうと思う今日この頃です。

Feelosopher's Path Japan 今瀬博

“WHEN YOU TRAVEL, REMEMBER THAT A FOREIGN COUNTRY IS NOT DESIGNED TO MAKE YOU COMFORTABLE. IT IS DESIGNED TO MAKE ITS OWN PEOPLE COMFORTABLE.” ~CLIFTON FADIMAN

「旅をする時、外国はあなたが快適に過ごせるようにデザインされている訳ではない事を覚えておいてください
その国に住んでいる人が快適に過ごせるようにデザインされています。」

-クリフトン ファディマン

